

漢字の次には短文を与える

「口」「目」「耳」「鼻」「顔」「頭」……

このような“実体に即した漢字”を覚えるのが第一段階で、第二段階は、

「大きい口」「赤い目」「長い耳」

「高い鼻」「丸い顔」「頭の毛」

など、“漢字と漢字をつなぎ合わせたもの”に進みます。

第三段階は、

「兎の耳は長い」「兎の目は赤い」

「水で顔を洗います」

というような“短文”に進みます。

漢字まじり文は、かなばかりの文と違って、文をまとめて、すらすらと読みますので、文意を正しくつかみ取ります。それができているか、できていないかをテストする方法としては、

「兎の目は長い」

「犬の耳は、兎の耳より長い」

というような文を読ませて、その内容の変な点に気付くかどうかをみます。

次には、子供のよく歌う歌の歌詞を、正しい表記にして与えるのが良い方法です。

青い鳥、小鳥。

なぜなぜに青い。

青い実を食べた。

とか、

海は広いな、大きいな。

月が上るし、日が沈む。

というような、あまり長くなく、内容もわかりやすいものから始めてください。

とりわけ、前者の場合には、「鳥」「青」が繰り返し使われていますので、幼児の目に触れやすく、したがって学習効果が高まりますので、歌詞を選ぶ場合には、なるべくそういうものを選んでください。

また、子供が好んで、繰り返し読んでもらいたがる物語、また、自分でよく見る絵物語があったら、それを教材にするのもよろしい。

たとえば、それが、

「あるひ、もりのなかで、はとがあつまって、まめをたべていました。」

という文だとしますと、「ひ」「もり」などの上に紙を貼って、その上に「日」「森」という漢字を書き入れて、

「ある日、森の中で、鳩が集まって、豆を食べていました。」

というように、漢字まじり文に改めます。毎日、本を見ている間に、ひとりで漢字を覚えていきます。